

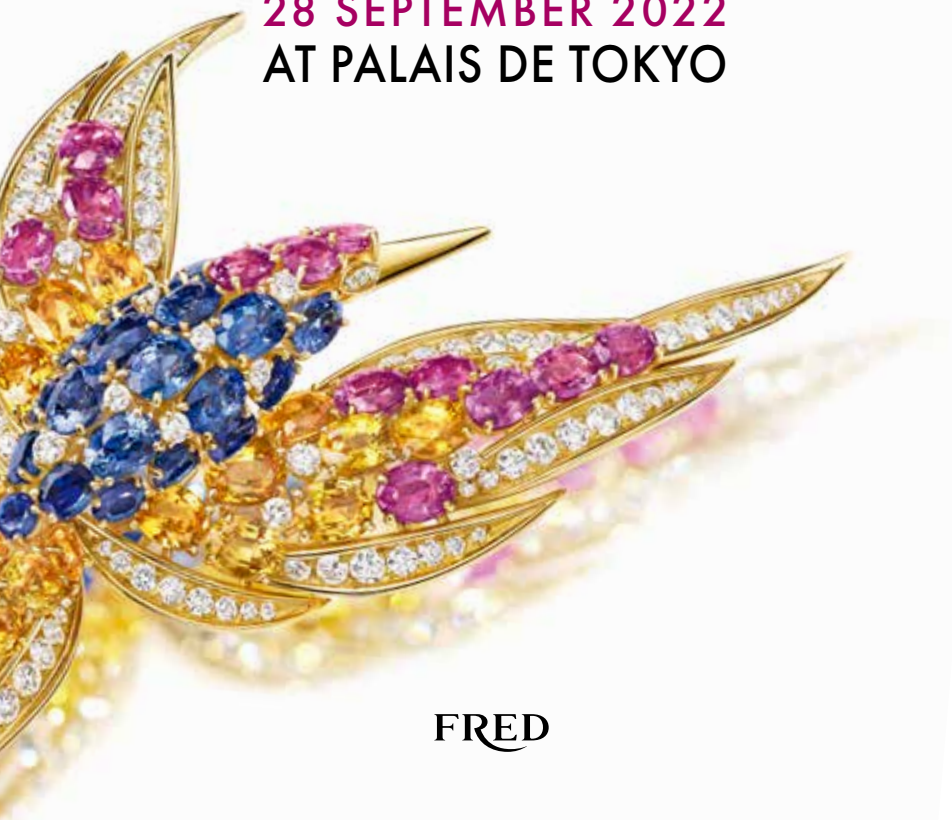
FRED

PARIS

にて初の  
回顧展を開催

« FRED, JOAILLIER CRÉATEUR DEPUIS 1936 »

28 SEPTEMBER 2022  
AT PALAIS DE TOKYO



FRED



# これは 類いまれなる ストーリー

**運**命に導かれ、比類なきジュエラーへの人生を歩んだ一人の人間の物語。歴史と冒険に満ちた人生を絡ませながら、彼の並外れた個性でメゾンの哲学が形成されていきました。FREDは創業から85年以上の間、世界各地でその存在感を放ち続けています。ラテンアメリカから、リヴィエラ、ハリウッド、中東、ネパール、そしてパリへ。FREDは、比類ない輝きを放つ宝石をセットしたジュエリーをいくつも生み出し、斬新で大胆な創造性を今なお育んでいます。

これは、一人の人間の運命が  
もたらしたジュエリーブランド  
**FRED**の物語。  
没入感溢れる

**「FRED, Joillier  
Createur depuis  
1936」** 回顧展は、  
**FRED**の足跡を  
辿る旅へと誘います。

**FRED**は、パリの  
現代美術館  
パレ・ド・トーキョーで  
**2022年9月28日より、  
FRED初の回顧展  
を開催します。**

この回顧展は、1936年の創業以来、メゾンのあらゆる側面に息吹を吹き込んだ創業者フレッド・サミュエル (Fred Samuel) の人生と、彼の人間性に焦点を当てた独創的な展覧会です。単なる遺産の展示ではなく、光と生きる喜びに溢れたジュエリーの世界へと来場者を誘います。タイムカプセルを開けて、FREDの現在、過去、未来を取り混ぜながら、450点以上のジュエリーや作品、300点近くの未公開アーカイブ、プライベートコレクションをはじめ、知人や友人から預かった品々を展示します。

**F**REDの飽くなき探求心と、大切な宝物を分かち合いたいというFREDの願いから、このユニークな展示会を開催することになりました。

フレッドの最高経営責任者であるチャールズ・ルーン(Charles Leung)と、フレッド・サミュエルの孫娘であり副社長兼アーティストックディレクターのヴァレリー・サミュエル(Valérie Samuel)の指揮の下、2019年にFREDの秘蔵の遺産の掘り起こしが始まりました。総重量10トンにも及ぶ1,000個の箱の中に、何十年もの間、7,000点以上のデザインやグワッシュ、7,000枚近い写真、その他数百点もの資料が眠っていました。それらを取り混ぜてメゾンのユニークな歴史を紡いでいきました。



ストーリーを切れ目なく繋ぐため、メゾンは世界各地で「*FRED seeks FRED*」と題したキャンペーンを展開しました。すると多くの情報が寄せられ、数多くの作品が再び姿を現しました。そうしたアイテムがこの回顧展で再び輝きを放ちます。このイベントの実現のために3年近くの準備、調査、研究を重ねました。FREDは初の回顧展を開催するにあたり、ジュエリー界で活躍する経験豊富な2人のキュレーターを起用しました。ジュエリー史家のヴァネッサ・クロン教授(Vanessa Cron)と、ジュエリー関連の数多くの著書を執筆しているジュエリーエディターのヴィンセント・メイラン氏(Vincent Meylan)です。

線を画し、他とはあえて違う道を選びました。1936年の創業以降、フレッド・サミュエルは「習慣の拒否／無視／脱却」をメゾンの特徴の一つに掲げていました。FREDはこの基本原則に基づいて、パレ・ド・トーキョーを会場に選び、約650 m<sup>2</sup>の広さの展示会を開催することにしました。フランスのカルチャーシーンを代表するこの現代アートの拠点は、インダストリアルな美学を備えながらも、これまでジュエラーによる展示会が開催されることがなく、それもまたメゾン独自の反順応主義的な精神を反映しています。

**フレッド・サミュエルの足跡を辿り、  
「FRED, Joaillier Créateur depuis 1936」回顧展の独特の光の中に足を踏み入れると、85年以上にわたる大胆な創作の秘密を紐解くことができます。**



12のテーマに分かれた部屋は、FREDのスタイルとともに「ムッシュ・フレッド」の個性を反映しています。この回顧展もまたこの原則に従って、連続する時間軸を解きほぐし、より優れた独自の時間を創造しています。こうして作られた特異な年表は、「光」という共通の糸に誘われるように来場者を誘います。その光はフレッド・サミュエルの人生に遍在し、メゾンの歴史に多大な影響を与えました。旅を連想させる香りやサウンドとともに、黄昏時と真昼の太陽が交互に映し出されます。回折現象を利用して色のスペクトルを浮かび上げさせたり、白と黒の力を強めたり。



# ソレイユドール との運命の 出会い

1908年にアルゼンチンで生まれたフレッド・サミュエルの人生にとって、太陽はとてつもなく大きな存在でした。これもまた運命のなせる業。FREDの物語にロイヤルスターの輝きが添えられます。1977年、フレッドの長男のアンリ・サミュエルが、希少な「ファンシーインテンシブイエロー」の輝きを放つイエローダイヤモンド(当時の重量は105.54カラット)の存在を知りました。エメラルドカットがその存在感をより一層際立てていました。アンリはこの石を逃すまいと、すぐに買い付けました。彼のこの機転を利かせた判断により、FREDは100カラットを超えるダイヤモンドを所有するジュエラーの仲間入りを果たしたのです。

そしてこのダイヤモンドにはまだ名前が付いていなかったため、アンリ・サミュエルはこの石に **the Soleil d'Or** と命名したのです。





## エメラルドカットは 驚異の 100カラット越え

**F**REDメゾンのロイヤル顧客にすぐに売却されたこの石は、その後、個人コレクションの個人情報の秘匿性により、まもなく表舞台から姿を消しました。しかし、運命は新たな展開をみせます。



**2**021年、FREDの遺産を調査中のヴァレリー・サミュエルは、ソレイユドールが再び姿を現したことを知ります。またしても、その石の魅力が独特の魔法を放ちました。チャールズ・ルーン(Charles Leung)と1995年からメゾンを所有するLVMHグループの支援により、そのイエローダイヤモンド(加工され101.57カラット)は、FREDに永久に戻されることになったのです。**the *Soleil d'Or* は、世界最大のカットダイヤモンドのリストで52位にランクされ(注1)、米国宝石学会が公表した「世界でもっとも印象的な宝石のひとつ」に挙げられています(注2)。**そのソレイユドールが今回初めて一般公開されます。この「地球に感謝すべき宝物」(注2)が、展覧会のオープニングを飾り、その美しさを余すところなく伝えるインスタレーションで、その温もりと太陽のオーラを放ちます。



注1 イアン・バルフォー(Ian Balfour)著『*Famous Diamonds*』(コリンズ社、1987年)所収。

注2 2021年、ソレイユドールに捧げられたモノグラフ。



# “MONSIEUR FRED” の世界

「私を突き動かして  
いるのは  
バイタリティだ。  
前進したい、  
行動したい、  
発展したいという  
衝動だ。  
関わり、抵抗し、  
創造する。  
それが人生だ」

## 宝

石がそうであったように、太陽の光と熱もフレッド・サミュエルの身体に流れ込み、全身を巡っていました。彼は、1908年8月3日、ブエノスアイレスの青い空の下に生まれ、宝石の取引業を営む一家の元で育ちました。12歳でパリに移り住み、ほどなくしてリビエラを訪れる機会を得て、その常夏のような風景に魅了されたのです。リヴィエラの太陽の輝きは、唯一無二でありながら同時に永続的であり、フレッドの生涯の糧となります。

## 歴

史的な「Rue Royale (ルー・ロワイヤル)」ブティックの建築的特徴的な要素である、ヤンセンのポワズリーやアーチ。これらは、FREDが大切にしている要素でもあり、回顧展の舞台背景にも採用されています。この会場に再現された彼のオフィスは、フレッド・サミュエルの暖かい人柄と、彼の人生を導いたインナーライト(内面の光)を放っています。そこは、クライアント、友人、協力者、そしてもちろん家族の笑顔が溢れ、親しい会話が交わされた場所でした。1960年代には、フレッド・サミュエルの冒険の旅に、息子のアンリとジャンも加わりました。そして、孫娘のヴァレリーは、1990年代にそこでキャリアをスタートさせ、2017年にFREDの副社長に就任しました。彼を知るすべての人にとって彼は昔も今も「ムッシュ・フレッド」であり、誰もが彼に最高の賛辞を贈ります。フレッド・サミュエルはそういう人でした。



生きる喜び、光、色に溢れた  
彼の哲学は、  
すでに形成されつつありました。  
それがごく自然に  
確かなものに  
形成されていったのです。



1 6歳でジュエリーの世界に飛び込み、美しいテレーズと出会い、数カ月後の1934年に結婚し、1936年にわずか28歳でメゾンをオープンして自分の足で立つという大胆さ。回顧展のムッシュ・フレッドのオフィスのドアを開けると、その当時の魅力的な時代の記憶に触れることができます。彼の思いは、人生の最大の苦難、戦争を経ても変わることはありませんでした。フレッド・サミュエルは、勇気と楽観主義的な発想の持ち主でした。紛争開始と同時にフランス外人部隊に加わり、3度にわたって捕虜になりました。そして早い段階でレジスタンス兵士となり、アメリカ軍がフランスの街道を通行できるよう支援活動を行いました。やがてジュエラーに戻った彼は、以前にも増して仕事に熱心に取り組みました。



「私は、生命力の強い衝動に駆られ、前に進み、動き、前進することを望んでいます。それが人生だ」と彼は言いました。最愛の妻のためにデザインした素晴らしいジュエリーは、彼の楽観主義と運命への信念を物語っています。

ジュエリーの世界に足を踏み入れた若き日の思い出を、感動の記憶のアルバムに見立て、ジュエリーボックスに収めました。それはFREDの礎でもあります。生きる喜び、光、色に溢れた彼の哲学は、すでに形成されつつありました。それがごく自然に確かなものに形成されていったのです。



## 色彩の 海



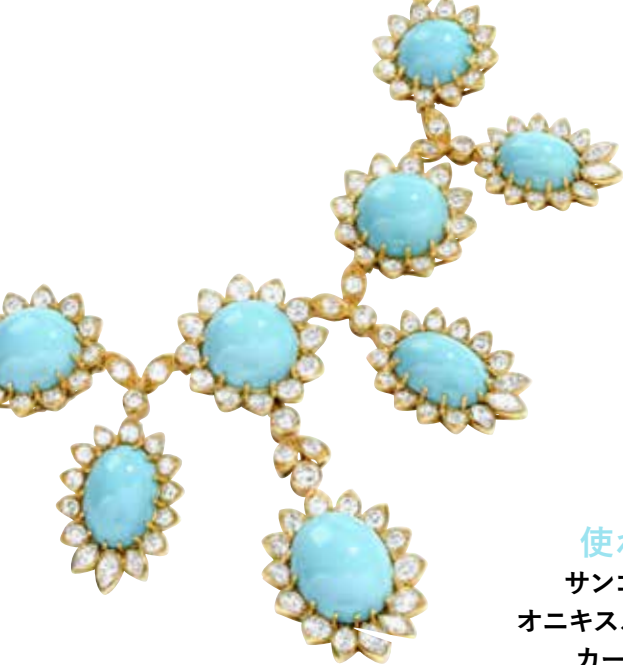
顧展では、多彩な光のスペクトルを映し出すかのように、貴石、半貴石、硬質石、そして真珠の色の変化による抽象的な宇宙が構成されています。このグラデーションは、石の一つひとつを通り抜けて、白昼夢や想像力の新たな扉を開いているかのようです。レッド、ピンク、オレンジ、イエローからグリーン、ブルー、パープル、そしてブラックまで、この詩的な色彩が広がるクレッシェンドのような繊細さが、FREDのジュエリーの典型的な喜びと大胆さを生んでいます。

# 始

まりはパールでした。フレッド・サミュエルは、パリの有名なディーラー、ワームズ兄弟の下で修業を始め、真珠に魅了されました。「真珠がテーブルの上に転がり、私はそれを追いかけた。どんな運命に導かれるのだろうかと夢見ながら」。彼は自分を導いてくれる直感を大切にしながら、その真珠が後に脚光を浴びることになることを予期していたのです。彼は真珠のエキスパートとして知られるようになり、1936年に養殖真珠をFREDのシグネチャーにしました。特定のピンクの色調に自分の名前をつけたほどでした。それ以来、真珠はメゾンのコレクションに必ず登場し、その華麗な色彩と曲線で長年にわたり宝石やパリュールを引き立て続けています。そしてバロックパールの官能的な魅力にオマージュを捧げた「ベイ・デ・ザンジュ」コレクションなどが登場しています。







# 新

感覚のカジュアルな魅力に導かれ、FREDのジュエリーは既成概念を覆しました。

荘厳なドロップと3連の赤珊瑚ビーズを使ったネックレスや、アメジスト、アクアマリン、シトリンのパリュール(時計付き)、ターコイズやダイヤモンドを使用したアイテムなどもあります。ピンククオーツ、アメジスト、ロードクロサイトのペブルをあしらったネックレスは、潮の満ち引きで磨かれたかのようなのです。その反射光に海への想いが募ります。

当時はまだ  
使われていなかった  
サンゴ、マザーオブパール、  
オニキス、ラピスラズリ、マラカイト、  
カーネリアン、アメジスト、  
ターコイズ、水晶、トパーズ、  
クリソプレーズなどを  
色とりどりのダイヤモンド、  
サファイア、ルビー、エメラルド  
とともに使用したのです。

ピンククオーツ、アメジスト、ロードクロサイトのペブルをあしらったネックレスは、潮の満ち引きで磨かれたかのようなのです。その反射光に海への想いが募ります。



# 帆

をたたく風の息づかい、ハリヤードの音、波の音がすでに聞こえています。あとはヨットに乗り込み、地中海の青い水平線に目を向けるだけ。フレッド・サミュエルは、「魚に生まれるべきだった」とよく口にしていました。熟練した船乗りでありスポーツマンであった彼は、海に対する限りない情熱を家族、とくに息子のアンリとジャンに伝えていました。父と同じように限界に挑戦し、限界を超えたいと願った兄弟は大会に参加し、1962年にフライングダッチマンのヨーロッパチャンピオンの称号を手に入れました。

FREDにとって、流れに逆らって泳ぐのは当たり前のこと。セーリングと海を愛する家族の思いから、メゾンのもっとも有名なクリエイションのひとつ、フォース10が誕生しました。



このブレスレットは、スチールを編み込んだケーブルとイエローゴールドのバックルという前代未聞の組み合わせにより1996年に誕生し、旋風を巻き起こしました。時代の流れを先取りし、ジュエリーを一気にモダンに進化させたのです。ユニセックスで使えるスポーティなジュエリーの先駆けとして、**カジュアルでシックなエレガンスのアイコンになりました**。FREDのMindとスタイルを象徴するこのジュエリーは、海からインスピレーションを得たアクセサリや日用品(ウインチ、アンカー、舵、ノーティカルノットなど)のコレクションを生み出しました。そうしたアイテムも回顧展に展示されています。



# ジュエラーの カジュアルな魅力 と 気まぐれな 発想

「How many carats is your best friend's diamond?

(お気に入りのダイヤは何カラット?)」

そう考えたことは  
ありませんか?

これは1970年代の  
FREDの広告です。

高級のパリュールからシンプルなペンダントまで、FREDのジュエリーには「真面目に考えず、真剣に物事に取り組む」という前例のない哲学が息衝いています。FREDのジュエリーやハイジュエリーは、日常生活の中に溶け込みます。昼の自然光と夜の祝祭の光、そのすべてのエネルギーによって躍動するボディは当時のモダンさとともに、フレッド・サミュエルの尽きることのない生きる喜びを映し出しています。精密さや卓越したノウハウを追求しつつ、軽快さや陽気さ、そして何よりユーモアが感じられます。



メゾンには、遊び心溢れる自由奔放な精神で、普段から身の回りの物をチャームやペンダントのデザインに取り入れていました。そうしたアイテムには、この広告で宣伝されているダイヤモンドゲージ(伝統的な宝石商の道具)をはじめ、中身の石油よりも高価なオイルバレル、ヨットの舵、救命胴衣、錨、エッフェル塔などをモチーフにしたデザインもあります。こうしたミニチャームは、プライベートでもフォーマルなシーンでも最大の魅力を発揮します。

回顧展では、こうしたミニチャームが、特大のゴールドチェーンのリンクに集結し、華麗に揺れ動いています。その中には長年かけて開発されたベスティアリーもあります。

1980年代には、同じようなユーモアセンスからユニークなシリーズ「フレディズ」が誕生しました。家族の一員に、サッカー選手、ゴルファー、野球やテニスの選手、小さな悪魔、カップル、天使などがいます。子どものような優しい丸みを帯びたこのドールたちは、ゴールドやパール、色とりどりのストーンがあしらわれています。あらゆるシーンで注目の的です。回顧展に設置されたジオラマにもいたるところに登場しています。パリの街を歩き回って占拠したり、セーヌ川でスケートをし、岸壁をスケートボードで滑走したり、運動場でにらめっこするドールも。ゴール!ホームラン!バーディ、イーグル!そんな声が聞こえてきそうです。小さいドールたちを応援したい、その活躍に拍手を送りたいという思いが強まって、思わず身に付けたくなるもの。

とてもチャーミングな「フレディズ」家族には、さまざまな分野で活躍するアーティスト、ジャン=ポール・グードの遊び心を表現したドールもいます。最近では日本人デザイナー、トモ・コイズミのファッションブルな可愛いドールも登場しています。

**当時の「アーティストにファンタジーを求め」、フレッド・サミュエルの創作世界に招き入れました。そして彼のその前衛的な発想が、芸術的なコレボレーションへとつながっていきます。**



1962年、FREDはジャン・コクトーとの最初のコラボレーションを行い、彼のドローイングから着想を得たメダルをデザインし、それをきっかけに星座をモチーフにしたブローチやメダルのシリーズが誕生しました。ベルナルド・ビュッフェ (Bernard Buffet)、ジョルジュ・ブラック (Georges Braque)、ミロスラフ・ブロゼック (Miroslav Brozek)、そしてアルマン、アロニア・バノン (Arman, Anilore Banon)、ジュエリーデザイナーのアンネリーズ・ミケルソン (Annelise Michelson)、さらにはモデルのケイト・モスなどと次々とコラボレーションを果たします。それぞれの表現領域の特異性とラディカルなコントラストを追求した彼らの作品は、FREDの象徴である建築アーチの幾何学的なデザインと時代を超えたカプセルデザインを組み合わせた展示ケースに収められています。

FREDのDNAが込められたこうしたコラボレーションスタイルは、別の形でも行われています。イラストレーターのラツィア (Razzia)、写真家デュオのピエール & ジル (Pierre & Gilles)、中国人アーティストのリウ・ボリン (Liu Bolin) は、この回顧展で展示される象徴的な広告キャンペーンの中で自分らしさを表現しています。さらに、デザイナー兼インテリア設計者のヴァンサン・ダレ (Vincent Darré) は、幻想的なエスカーレ・ド・フレッド・サミュエルのほか、東京、モナコ、ドバイなどのブティックの装飾も手掛けています。

このような芸術的な出会いはさらなる会を生みます。  
**FREDの名は、世界の隅々にまで魅力的な魔法をかけているかのようです。**



# レッドカーペット から 王室まで

**F**REDが誘うレッドカーペットを、左右からフラッシュがたかれ照らします。ライト、カメラ、アクション！スポットライトにシーズドレスが浮かび上がり、ルビーとダイヤモンドのハート23個が連なった有名なネックレスが照らし出されます。このシルエットは紛れもなく、映画『プリティ・ウーマン』でジュリア・ロバーツが演じたビビアン。この映画での、彼女の無邪気な笑い声とリチャード・ギアの紳士的な振る舞いで、FREDはハリウッドの伝説的な存在となりました。『カジノ・ロワイヤル』では、ボンドガールのカテリーナ・ムリーノがスターパリュールを着用するなど、メゾンのアイテムは数々の映画に登場しています。



**陽** 気でカリスマ性があり、ダンディな雰囲気  
を漂わせ、つねに  
シックで颯爽とした  
フレッド・サミュエル

は、もともとパーティ好きでしたが、それだけの理由で仮面舞踏会や、ブティックのオープニングパーティや新コレクションの発表会を開いていたわけではありません。パーティは、その時々偉大なスターたちとの出会いの場でもありました。マレーネ・ディートリヒやバーバラ・ハットンなど、多くの著名人がロイヤル顧客となり、フレッドの友人になっていきました。モンテカルロにオープンしたFREDのパーティで、ある人物との結び付きが深まりました。それはモナコのグレース・ケリー公妃でした。その夜、彼女はフレッドにサプライズを用意していました。「**彼女はとてもエレガントに、身に付けていたパンサーのリングを私に見せてこう言ったのです。『このジュエリーがお気に入り、絶対外さないわ』と**」。そのリングは回顧展で、公妃のお気に入りのジュエリーとともに展示されています。公妃の星座である蠍座のペンダントもあります。メゾンがデザインしたもので、公妃はとても気に入って行っていました。

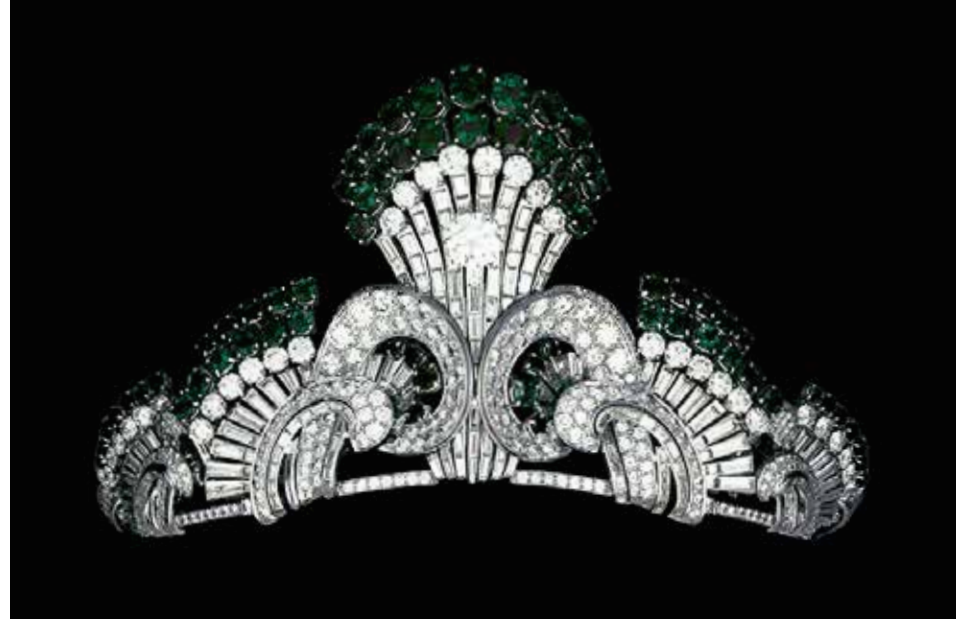




**フ**レッド・サミュエルの創造性と、ジュエリーを人生の大小さまざまな瞬間を照らす幸せの煌めきにしたいという彼の願いの下に、FREDは瞬く間に、中東からアジアに至る主要な王室の御用達ブランドになりました。そうした王室の一つ、ネパール王室と特別な物語が展開されることとなります。そのアイテムは、照明を抑えたくつろぎ感のある洗練された部屋で披露されました。そこには、赤やオレンジの鮮やかなネパールの伝統的な布地に金糸の刺繍が施されたベンチとクッションが置かれていました。

その空間の繊細に調節された薄明りの中で、映画の一場面を連想させるような歴史的な宝物の物語へと誘われたのです。それはプラチナにダイヤモンドとエメラルドが光るティアラでした。中央のモチーフはまさに戴冠式に相応しく、ナーガ王を連想させます。（「ナーガ」はサンスクリット語で蛇の意、インド神話の蛇神であり仏法の守護神）

**1**960年、ネパール国王夫妻が初めて注文したこのティアラは、パリュールー式の中心的なアイテムとなりました。もともと実り多いコラボレーションのきっかけとなりました。フレッド・サミュエル、そしてアンリ、ヴァレリーへと続く3世代にわたるジュエラーは、約40年にわたり、このネパール王国の3世代のロイヤルファミリーのために、FREDの創造性を余すところなく捧げてきました。これは類まれなジュエリーを生んできたフレッド一族とネパール王族の2つのファミリーのドキュメンタリーそのものです。600点近い図面や写真で綴られています。その中には、全体をダイヤモンドで構成したパリュールーもあります。中央のモチーフはティアラから取り外してネックレスとして、両脇のモチーフはブローチやイヤリングに変身させることができる変幻自在のデザインです。



様々な歴史が  
紡がれる中でも、  
**特にネパール王室は  
FREDにとって  
特別な物語です。**

**1**936年にパリのジュエラーとして誕生したFREDは、1960年代に世界的に知られるようになりました。世界のいくつもの国で暮らし、近代的な発想をさまざまに取り入れた創業者フレッド・サミュエルは、誰よりも先に最適な地を直感的に感じ取っていました。先見の明があり、彼はパリのオルリー空港に

初めてブティックをオープンさせたジュエラーでもあります。コンコルドも外航船フランス号もガラスのショーケースを備えていました。陸上で、海上で、空の上で、こうして設置された場所からFREDの世界が広がり、新たな展開をもたらしたのです。星座を構成する星が増えるかのように、ロサンゼルス、ニューヨーク、ダラス、ヒューストンにFREDの店がオープンします。さらに、東京、北京、上海、ドバイ、シンガポールへ。そうした国々でメゾンのユニークなスタイルと精神が注目を集めています。



# ジュエリーの アート： サヴォアフェール とエクセレンス

フレッド・サミュエルがメゾンにもたらしたものは、創造的な大胆さだけではありません。彼は、コレクションやジュエリーの一つひとつにエクセレンスを求め、最高の技術を持つ職人たちに、その卓越したノウハウの限界に挑戦するように促しました。長い廊下を時の流れをイメージしたリボンに見立て、全長22メートルの長いアーチが形成されています。先が細く奥行きを感じさせる廊下の向こうに、目線と床面が美しく重なり、そこにFREDが蓄積してきた技術の粋が見て取れます。ゴールドの壁はまさに、FREDデザインの歴史を語るのにうってつけです。彫金、ポリッシュ、マット、ハンマー、メッシュ状のスパンコールなど多彩な表情を見せるメタルは、この貴重なアートを構成する重要な要素になっています。ジュエリーとしてその美しさは時代や流行に左右されず、特大のビジュアルはそれぞれのクリエイションの核心へと誘うかのようです。どこを見ても、ジュエリーの有機的な曲線と直線的な幾何学模様に目が留まります。どれもグラフィックや自然主義、そしてもちろん素晴らしい海とフレンチリビエラに着想を得たデザインです。こうした優雅な組み

合わせは、1970年代に時計師ジェラルド・ジェンタ(Gérald Genta)と共同で製作した一連の時計にも見て取れます。エナメル、ラッカー、ラピスラズリなどの硬質石はパリュールを引き立てるだけでなく、振り子やアストロラーベなどの装飾品や、マラカイトバックギャモンセットなどのボードゲームにも使用されています。アカデミーフランセーズ会員の剣にも用いられています。



その一つに、エドガー・フォール大統領のために作られたものがあります。大統領の人生と個性を象徴するようなデザインで、金製の柄にはマラカイトの鱗状メッキが施されており、FREDのノウハウが遺憾なく発揮されています。



曲がりくねった独特のデザインは、メゾンが大切にしている汎用性と変幻自在性を表しています。繊細に咲き誇る花から高価な雄しべを覗かせるフローラルハートのリング、気分や装いに合わせて石をカボションに変更できるジュエリー、可動面を持つ魅惑的なネックレスなど、FREDはジュエリーの定義を変えています。誰もが自分の作品に相応しいものを選び、自分のスタイルを反映させ、個性の証にできるのです。言い換えるなら、すべての人の夢を素晴らしい形で実現できるのです。

**芸** 術の核心であるジュエリーを迫るこの旅は、まだまだ多くの驚きに満ちています。そのうちの一つが、荘厳なアーチの奥の、不思議な球体ケースのくぼみに収められています。

この宝物には、  
**Monsieur Fred**  
**Inner Light** という  
名前が付けられています。

FREDの創造的かつ技術的な伝統と未来との間に自然なつながりをもたらす最新のハイジュエリーコレクションです。フレッド・サミュエルの個性にオマージュを込めて、メゾンのコードとシグネチャーを自由に解釈しています。

**Composée de six**  
**chapitres, elle ouvre**  
**ici un livre rare : celui qui**  
**retrace sa création.**

スケッチ、水彩画、試作品をはじめ、職人の肩越しに撮影した映像もあります。それは息をのむような緻密な技術と工夫に焦点が当てられています。セッティング、マザーオブパールやオニキスの手彫り、石や真珠の選択と芸術的配置、見えない留め具の開発など、さらに、ジュエリーのスタイルを変えて何通りにも身につけることができるシステムも構築されています。FREDヒーローカットの魅力も詳細に明かされます。帆のような形に32のファセットがあらわれています。メゾンが特別に開発した新しいダイヤモンドカットで、かつてない光の奇跡が生まれています。



大胆なまでにモダンなデザインには、フレッド・サミュエルの強さと勇気が込められています。彼の海やウォータースポーツへの情熱と、つねにさらに先を目指す彼の野望を体現しています。また、未来を見据えたこのコレクションは、ハイジュエリーにジェンダーレスなアクセントを添えた前衛的なアイデアを提案しています。女性を飾るためのデザインでありながら男性をも魅了し、この世界と宇宙へと誘います。こうした精神を反映して、回顧展では「ムッシュ フレッド インナーライト」コレクションから数点をバーチャルに身に付けることができるミラーが設置されています。鏡に映し出される自分に「内面の光」のエネルギーが湧きあがってくるかのようです。





## 並外れた 感動



**F**REDは不可能を夢見る。  
この願いを85年以上もの  
間、抱き続けています。フレ  
ッド・サミュエルは彼の誌的  
想像力で、しばしばおとぎ  
話の世界に入り込んでいました。

彼はこう語っています。  
「ある日のこと、ある国の王子が  
自分の娘のウェディングドレスの  
生地を持って、FREDにやってきた。  
生地金の糸のデザインを再現した  
ネックレスを作ってほしいとのこと。  
私はその発想に感銘を受け、  
どう実現しようかと胸を躍らせた。も  
っとも色鮮やかなストーンを  
想像し、それを美しく仕上げるための  
繊細なテクニックを考えた。  
ローズカットダイヤモンド、  
ペアシェイプパール、  
バフトップルビー、エメラルドカット  
のサファイア。形は、ラウンド、  
マルキーゼ、トラペゾイド、  
バゲット、スクエア。私はあらゆる  
カットを試した。どれも独自の輝きを  
放った。そうして注文品の制作に  
取り掛かり、最終的にモチーフを  
作り、ゴールドとダイヤモンドの  
ネックレスにあしらった。そして  
クリップ式イヤリング、  
ブレスレット、リングも作った。  
どれも繊細なスタイルに仕上がった」  
(注3)





顧展は、エメラルドカットのスクエアサイドで自然の驚異を表現したソレイユドール(セッティングなし)で幕を開け、もう一つの壮麗な世界「エクセプションナル」で幕を閉じます。

この最後の部屋は、天空のような光に包まれ、美しさと感動に満ちた世界が具現化されています。無垢な星の慈愛に満ちた後光の下、最も素晴らしい作品が、メゾンの創造的な大胆さとシグネチャーの自由奔放さを表現しています。

そこには、1991年にアンリ・サミュエルがデザインした鳥のブローチも展示されています。

マルチカラーのサファイアで構成され、総重量は56.7カラット。それはカラーストーンに注がれたFREDの情熱の象徴であり、回顧展のポスターにも使われています。

さらに、ダイヤモンドの花のブローチや、眩いばかりのイエローダイヤモンドが散りばめられたネックレスもあります。見事なまでに美しいイブニングバッグは最高にエレガント。そこには息をのむほど繊細なノウハウが詰まっています。こうした宝石や豪華なオブジェには、それぞれのクリエイションにまつわるストーリーが添えられています。



レイユドールがそうであったように、どれも再び脚光を浴びるかもしれないクリエイションです。3

キロの金と1キロの銀で作られた噴水の超現実的な美しさも目の当たりにします。ロッククリスタル、ヒスイ、サンゴなどに、総重量143.68カラットものダイヤモンドが散りばめられています。この作品は1991年に中東の常連のお客様の依頼を受けて、モネの睡蓮をイメージして作られました。さらに、目がくらむような275カラットのセイロンサファイア「ブルームーン」もあります。これは1980年にメゾンが買い付けたもので、ダイヤモンドがセッティングされた壮麗なティアラの中央に飾られています。この宝石にまつわるおとぎ話のような物語があります。舞台は1984年の星降る夜、カンヌのホテル・マルティネスの一室です。



「その日はイスラム歴新年の前夜でした。ドレッシングガウンに身を包んだ王子は、8歳の娘とその弟の5、6歳の男の子と戯れながら、世界各地から届く電話での新年の挨拶を受けていました。時はすでに朝方4時ごろ。彼は何気なくティアラを手にすると、娘の髪に添えて「これ好き？」と聞いたのです。うとうとと眠りにつこうとしていた少女は、こくりとうなずいたのです。それで取引が決まりました」(注4)。FREDはこれからも永遠に、人生の大小の喜びの瞬間を彩る魔術師のような存在であり続けます。

注3 「Mémoires d'un Joaillier」(フレッド・サミュエル、1992年)より抜粋。

注4 著書『FRED Joaillier, de la Rue Royale à la Place Vendôme』(Anne de Jouvenel著、Les Éditions du Mécène、1999年)の逸話。

創業から85年以上の時を経て、FREDの創造的な活力の秘密にあらゆる側面から初めてスポットライトが当てられます。「FRED, *Joillier Créateur depuis 1936*」回顧展では、何百点ものジュエリーやアーカイブの展示とともに、創業者フレッド・サミュエルという一人の人間のビジョンが導いたメゾンの歴史を掘り下げます。この会場を巡る壮大な旅を通して、生きる喜びと大胆さを哲学の基軸とするジュエリーのさまざまな物語に触れることができます。

回顧展は、9月28日から10月24日まで、パリのパレ・ド・トーキョーで開催され、会場の様子はオンラインでも公開されます [www.fredexhibition.com](http://www.fredexhibition.com)。目的地から目的地へ。FREDの魔法に満ちた長い冒険の旅はさらに続きます。

FRED